# 校長室だより

令和５年度
４月２８日
ＮＯ．４

## 快晴の青空 透き通る海のもと 春の遠足

４月２７日（木）、みんな楽しみにしていた春の遠足が行われました。岡崎市内でも、春の遠足を行っている学校は少なくなりました。青い空、透き通った海、いろいろな生き物たち、秦梨っ子みんなで、自然を満喫しました。全員でバスに乗って行った蒲郡の水族館、竹島水族館といえば、「日本一小さい、狭い水族館」や「展示種類日本一」などと言われる今、話題の水族館です。普段、目にすることのない魚や海の生き物に、子供たちも興味津々で、目を輝かせていました。かつては、入場者数が減少し存続も危ぶまれた水族館ですが、今、大きく回復しているのは、館長をはじめ飼育員の方々の「大きな望み　たゆまぬ努力」があったと聞きます。ほかの水族館のように超大型の水槽はありませんが、小さいながらも、飼育員さんによる面白い表示（説明）や実際に触れたりできる体験活動など、工夫を凝らして、みんなが楽しめる「水族館」になったのは、小さくても一人一人が頑張っている秦梨小学校も同じだと感じました。大変でも、笑顔でがんばることが、大切だと教えてもらった気がしました。

子供たちは、「ニモが一番よかった」「サメのお腹を触ったらぶよぶよして気持ちよかったよ」など、自分だけの「推し生き物」を見つけたり、いろいろなものを見たり聞いたり挑戦したりして、たくさんのことを学びました。こうして自分から学ぼうとする姿が、秦梨っ子ならではのことだと感じました。また、中でも１番人気だったのは、「アシカショー」でした。アシカショーでは、館長さん自ら、ショーを見せてくれました。アシカが難しい技を決めるごとに、見ている人からは大きな歓声が上がりました。ショーの中で、館長さんの「この子も簡単な技なら、１週間もあればできるけど、難しい技になると２～３週間、ずっと練習するんだよ」というお話は、秦梨っ子と同じだと思いました。

竹島へつながる橋から見える海は、とても透き通ってきれいでした。牛乳１杯を排水溝に流すと、魚が住めるようにするまでに、浴槽１６杯の水がいると言われます。今こうして、きれいな海が保たれていることの裏には、目には見えない、人々の思いや努力があります。そして、何事においても、そんな目に見えない思いや努力を、これからも大切にできる、自分から進んでできる秦梨っ子になれるといいと願います。